

世界の

見方



謝長廷
台北駐日経済文化代表処代表

環境問題 台湾の貢献を

今年、台湾と日本には、

例年にも増して台風が次々と上陸した。9月に台湾南部へ接近したスーパー台風は観測史上最大の風速を記録し、日本でも報道された。日本でもゲリラ豪雨が度々発生し、世界各地の水害などの報道を目にすると、気候変動による異常気象が身近な問題であることを実感させられる。

台湾と日本は共に自然災害が多発する地域であり、

近年、災害発生時にはお互

い支援し合う良好な関係が築かれている。台北市消防局が東京都の消防訓練に参加し、先月は台湾新北市と神奈川県が防災協定を締結するなど、防災面での台日連携が進んでいる。

地球村の一員として、台湾は環境保護や温室効果ガス排出削減に力を入れている。先ごろ東京で開催され

た「台湾エクセレンス」製品展で、女優の藤原紀香さ

んが、使用済みのコーヒー

の繊維を用いた台湾製ジャケットを「機能的にもデザイン的にも素晴らしい」と紹介してくれたが、台日がグリーン製品の研究開発や市場開拓で一層協力できれば、温室効果ガス排出削減に貢献できるに違いない。

11月7日より、モロッコで国連気候変動枠組み条約（UNFCCC）の締約国

会議（COP22）が開催される。台湾は会議への参加

台日防災協力



台湾と日本は「亜東関係協会」（台湾）と「交流協会」（日本）の枠組みの下、2010年4月に防災や環境保護、省エネルギーなどの交流を含む「台日交流協力強化に関する覚書」に調印した。同年12月には「地震、台風等の際する土砂災害の防止及び砂防に係る技術交流に関する取り決め」に調印。15年11月に「防災実務協力覚書」に調印し、大規模、複合的災害に見舞われた際の耐災、防災能力の強化を図っている。

を求めているが、国連加盟国ではない台湾は締約国になれず、COPの正式会議にも出席できず、NGO（非政府組織）として周辺会議にしか参加できない。これでは台湾が関わる環境分野の国際協力をスムーズに進めることが難しくなる。

地球は一つであり、環境問題に国境はない。台湾2

（日本語で寄稿）